

育成センターだより



編集・発行 千曲市少年育成センター
事務局：千曲市教育委員会 生涯学習課内
お問い合わせ：TEL 273-1111 内線 4113

教育相談・生活相談のご案内

【児童・生徒の教育相談】

- * 相談日・時間
土・日曜日及び祝日を除く毎日
AM9:00～PM5:00
- * 場 所
市総合教育センター内（埴生中学校敷地）
教育相談センター
電話相談・面接相談 273-5105（直通）

【青少年の生活相談】

- * 相談日・時間
原則として月・水・金曜日
AM9:00～PM4:00（要・予約）
- * 場 所
千曲市役所 4階
少年育成センター（生涯学習課内）
電話 273-1111（内線 4113）
- * E-mail : youth@city.chikuma.lg.jp

※いずれも秘密は守られます

第3日曜日は家族ふれあう「家庭の日」 増やそう会話、つくろう思い出！ — 作ろうよ心がつながる家族の記念日 —

眞鍋淑郎氏に学ぶ

教育委員 松田 祐子

みなさん、夢・やりたいこと、たくさんありますね。昨年の東京オリンピックや二月の北京オリンピックを見ていますと、やりたいこと、夢を追求している人たちがたくさんいました。

でも、夢がそのまま叶ったり、やりたいことが仕事につながったりする人は少ないですね。

「好奇心は、天才に勝る」

二〇二一年にノーベル物理学賞を受賞した眞鍋さんの言葉です。好奇心に基づいて、得意な分野を伸ばしてはどうでしょう。誰もやってないことを始めれば、普通の才能でも面白い研究となるそうです。自分の好きなことを見つけて、それを突き詰めて前向きに頑張っていくことが大切なのです。



私も何にでも好奇心を持って過ごしていこうと、この年頭に決意しました。みなさんも、何事にも好奇心を持って臨んでいきましょう。

みなさんの夢が叶うことを願っています。

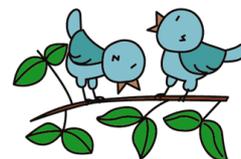
また、眞鍋さんの人生のモットーは、「シンプルとバランス」です。自然界、人間界の複雑さと競争しても勝てません。難しいことですが、必要な部分を煮詰めて、本質だけにするのが重要だということです。例えば、生け花であれば、数本の花材をシンプルでバランスよく生けていけば、すっきり、きりっと美しい配置の生け花の作品となります。

”よいことが起こったから笑顔になるのではなく、笑顔だからよいことは起こる”こんなふうに、シンプルに過ごしていきたいです。

2 ページ、3 ページでは、新しい少年補導委員さんと活動について紹介しています。ご覧ください。



新しい少年補導委員を紹介します



令和4年度・5年度の2年間、少年補導委員として活動する委員、30名です。よろしくお願いいたします。

小学校区	選出区	氏名(敬称略) ○は地区代表
屋代小	屋代第2	神尾 敦男
	屋代第3	中山 みどり
	屋代第4	池田 茂晴
	屋代第6	○ 篠原 哲雄
東小	森西	○ 古川 正
	倉科	山岸 秀人
	土口	吉村 一高
埴生小	鋳物師屋	宮坂 盛永
	打沢	○湯原 志津枝
	小島	山口 政春
	新田	吉田 弘子
	中	尾澤 徹
治田小	上八日町	高木 好江
	治田町	山田 智恵
	桑原西	○中山 一正
八幡小	峯	原田 正夫
	八幡上町	○小林 京子
	森下	北里 ゆかり
戸倉小	今井町	○塚田 盛夫
	新戸倉温泉	坂口 公男
	戸倉温泉	畑山 佳則
更級小	芝原	久保 元志
	仙石	大谷 省一
	羽尾第5	○ 夏目 勤
五加小	上徳間	児玉 友美
	内川	○中村 公夫
	千本柳	猪又 重信
上山田小	新山	○市川 智深
	中央	小林 康彦
	城腰	若林 直美

少年補導委員会 会長 古川 正
副会長 中村 公夫 市川 智深

千曲市少年補導委員とは

- ・区長さんより推薦、千曲市教育委員会より委嘱された方で、少年の健全育成業務をします。
- ・もとは、青少年の問題行動に対し、声かけ等を行う活動を目的としていましたが、広く、子どもたちの安全についても、見守っていきます。

具体的な活動

- ・月1~2回、午後3:00~5:00ころ、1~2時間、車や徒歩で地区の駅前、店、公園等を巡回して見守り、声かけをします。(時間帯や巡回時間は季節やコロナによって変わります)
- ・夏休みには、学校の担当の先生と、PTA 役員と一緒に地区を巡回します。
- ・お祭り(夏祭り、大頭祭など)で会場やその周辺を巡回します。
- ・7月・11月には区内の店舗などを訪問し、その環境をチェックします。

千曲市少年育成センター

所長 島田 栄一 (教育部長)
事務局長 宮坂 敏 (生涯学習課長)
事務局次長 高島 定幸 (生涯学習課)
事務局相談員 宮坂久美子 (生涯学習課)

※ 「育成センターだより」の作成を担当します

事務局員 鎌田貞治 (生涯学習課)

※ 事務局の窓口です

令和4年度育成センター活動始まる

新型コロナウイルス感染症の県レベル5が継続していましたが、活動を始めています。

<信州あいさつ運動>

県将来世代応援県民会議の「信州あいさつ運動」を4月11日にあんずの里保育園で行いました。当センターからも参加し、子どもたちとあいさつを交わしました。



<定例会議から>

4月5日(火)には、総会と第1回補導委員会定例会議、5月9日(月)には、第2回定例会議を行いました。

千曲警察署生活安全課より、昨今の少年補導について次のような話をいただきました。

- ・少年補導の数は、10年前と比べると非常に少なくなっている。
- ・3月4月で千曲署では16件の少年補導があった。高校生以上の少年が多い。



<学校訪問>

5月11日、12日、13日と、少年補導委員の学校訪問を行い、学校の様子をお聞きしたり、学校からの要望(巡回してほしい場所、日時など)を受けたりしました。また、職員の皆さんに補導委員の紹介を行いました。補導委員の活動内容を知っていただくよい機会となりました。また、児童・生徒さんにも補導委員の顔を知ってもらうために、紹介のポスターを校内に掲示していただきました。



担当の先生と補導委員の懇談
(屋代中学校)



教職員の皆さんへの紹介
(戸倉上山田中学校)



ポスターを見る子どもたち
(八幡小学校)

編集室の窓



令和4年度、委嘱された30名の補導委員のうち、24名が新規の委員でスタートしました。事務局の担当も新しくなりました。この「育成センターだより」もより読みやすく、親しみのある内容になるように工夫していきたいと思っております。コロナ禍は続いています。地域、学校、家庭がつながって青少年を健全に育成していけるように努めていきたいものです。

～わたしのゆめ～



子ども達が、粘り強く意欲的に取り組んでいくためには、夢や目標をもち、その達成に向けて取り組むことが何よりも大切です。今の子ども達には夢がない、と言われていました。そんな子ども達が、どんな夢をもち、どのように立ち向かっていこうとしているかを紹介します。

「おねえちゃんといっしょに」 治田小学校 2年 下寄 理乃

わたしのしょうらいのゆめは、学校の先生になることです。わたしのおねえちゃんも、おなじゆめです。

わたしが、学校の先生になりたいわけは、子どもたちに、たくさんべんきょうををしておしえてあげたいからです。あたまのいい先生になって、わたしがしていることを、たくさんおしえてあげたいです。

そのために、いま、わたしは、こくごやさんすうのべんきょうをがんばっています。わたしは、べんきょうをすることがすきなので、まい日、たのしいです。元気なからだになるように、きゅうしょくもがんばってたべています。

あこがれのおねえちゃんといっしょに学校の先生になれたらいいなと思っています。

「ぼくの夢」 戸倉小学校 6年 塚原 徳

ぼくの将来の夢は、水族館の飼育員になることです。昨年、名古屋港水族館に家族で行ったとき、イルカショーを見ました。前列で見たので、イルカも飼育員さんも間近で見ることができました。イルカが水をかけてきて、とても楽しい気分になりました。ショーを見ていて、飼育員さんがイルカと仲良くしていることをとてもうらやましく思い、ぼくもやってみたいと思いました。きっと水そうの掃除や魚の健康管理などがうまくいかないこともあるかもしれません。でも、この仕事をやってみたいと思いました。

ぼくがこの夢をかなえるために、人に喜んでもらえることや人の役に立つこと、自分の目の前にあるやるべきことを、今はしっかり、がんばってやっていきたいと思っています。

「将来の夢」 更埴西中学校 2年 鍛冶 翼

私の将来の夢は、スポーツでケガをした人をスポーツ医学で助けることです。以前、私はスポーツでケガをして病院に行って、病院の先生にテーピングを巻いてもらうことがありました。そのときに手当てをしてくれた先生に「早く良くなって、チームのみんなを支えてあげて」と言ってもらいました。私はとても嬉しくなり、早く治して頑張ろうという気持ちになれました。それがきっかけで、私も将来、人の心に寄り添ってケガの治療をしてあげたいと思うようになりました。スポーツ医学は、専門的な知識が必要になります。まずは、スポーツ医学を学べる進路を実現できるように学習に取り組んでいきたいと思っています。

「僕の夢」 更埴西中学校 2年 石坂 大貴

僕の夢は、父の跡を継ぐことです。父は祖父が長年やってきている会社で、バックホーなどの部品を作っています。小さい頃から、工場に行くことがあり、小さい物から大きい物、いろいろな形の物をいくつかの工程に分け、一つ一つ丁寧に作っている父の姿を見てきました。小さい部品でも不良品を出せば、人の命にかかわるので慎重に作っているのです。そうして作った部品が、最終段階で組み立てられて、1台のバックホーが完成するそうです。僕も父のように、建設現場などで、いろいろな人が安心して乗ることができるバックホーを作れるように、専門的な知識と技能を身につけて、将来は父の跡を継いでいきたいです。